

2016 平和を考える集い

12月9～11日、盛岡市アイーナ4階県民プラザにおいて開催しました。戦中・戦後の暮らし展は1980年代から県内各地で実施し、今年で36回目となりました。また、高校生平和大使報告会は今年で5回目となり、2013年から戦中・戦後の暮らし展と統合し「平和を考える集い」として開催しています。

展示部門の「戦中・戦後の暮らし展」には、3日間で合計608人の来場者がありました。開催にあたって盛岡三支部及び分会、学校からの協力をいただきました。展示、撤去の作業、報告会等へのべ87人の分会員の協力がありました。戦時中の戦意高揚のためのプロパガンダポスターや生活用品、戦時中の様子を伝える学校誌の抜粋や日本の教科書、日本との戦争を表現する海外の教科書の記述等、戦争中の実物資料に触れることによって戦時中



の生活を実感として感じることができ、戦争の悲惨さや平和の大切さについて考える展示が行われました。

高校生平和大使報告会では、国連欧州本部訪問やスイスの高校生との交流などについて報告しました。自分の震災体験も含めて「辛いこと、忘れたいことも“知ること”が大切だ、“知ること”から、判断することや考え



ることが可能になる。」と述べました。

戦争を語る会では、釜石高等女学校の遠野への疎開と艦砲射撃の目撃証言など、貴重な体験が話されました。また、岩手在住で8歳の時に広島で被爆した三田健二郎さんは、今まで証言してこなかった辛かった思いと、証言している現在の思いを語りました。

アンケートには、「実物をさわる機会はなかなか無いので、貴重な体験ができた。戦争に対する思いや考えが今回の展示で変わった。」「高校生ががんばっていることに元気をもらった。」「戦争の悲痛さを、若い年代に伝えていくことが平和につながると思う。」「戦争や震災は風化させてはいけない。語り継いでいかなければならない。」等の感想が寄せられました。

